

# NISTEPにおける「大震災対応」 調査研究の進捗状況

科学技術政策研究所

# 震災による科学技術に対する国民の意識・期待の変化 ～科学技術に関する月次意識調査の結果を基にして～

## ○月次意識調査の実施状況

科学技術政策研究所では、2009年11月から科学技術に関する国民の意識の変化を測ることを目的に、「科学技術に関する月次意識調査」を実施している。震災の前までは、科学技術に関する一般的な意識を聞いていたが、今般の東日本大震災を受けて、4月からは、原発の事故に関する問いを新たに加えて調査を継続している。

## ○調査の方法

インターネット調査会社の有する登録モニターのうち、依頼に応じた者が、調査会社がインターネット上に設置している調査画面にアクセスして回答。

月次調査の各回の調査において、10代から60代までの男女それぞれ60名以上(合計で720名以上)の回答が得られるように実施。

## ○今後の計画

2012年3月まで、毎月月末に月次意識調査(ネット調査)を継続して実施する。

また、2011年7月(実施済)と12月に訪問面接方式による調査も実施し、過去に内閣府等が面接方式で実施した調査との比較をより正確に行えるように計画している。

## 調査の実施期間及び有効回答回収数

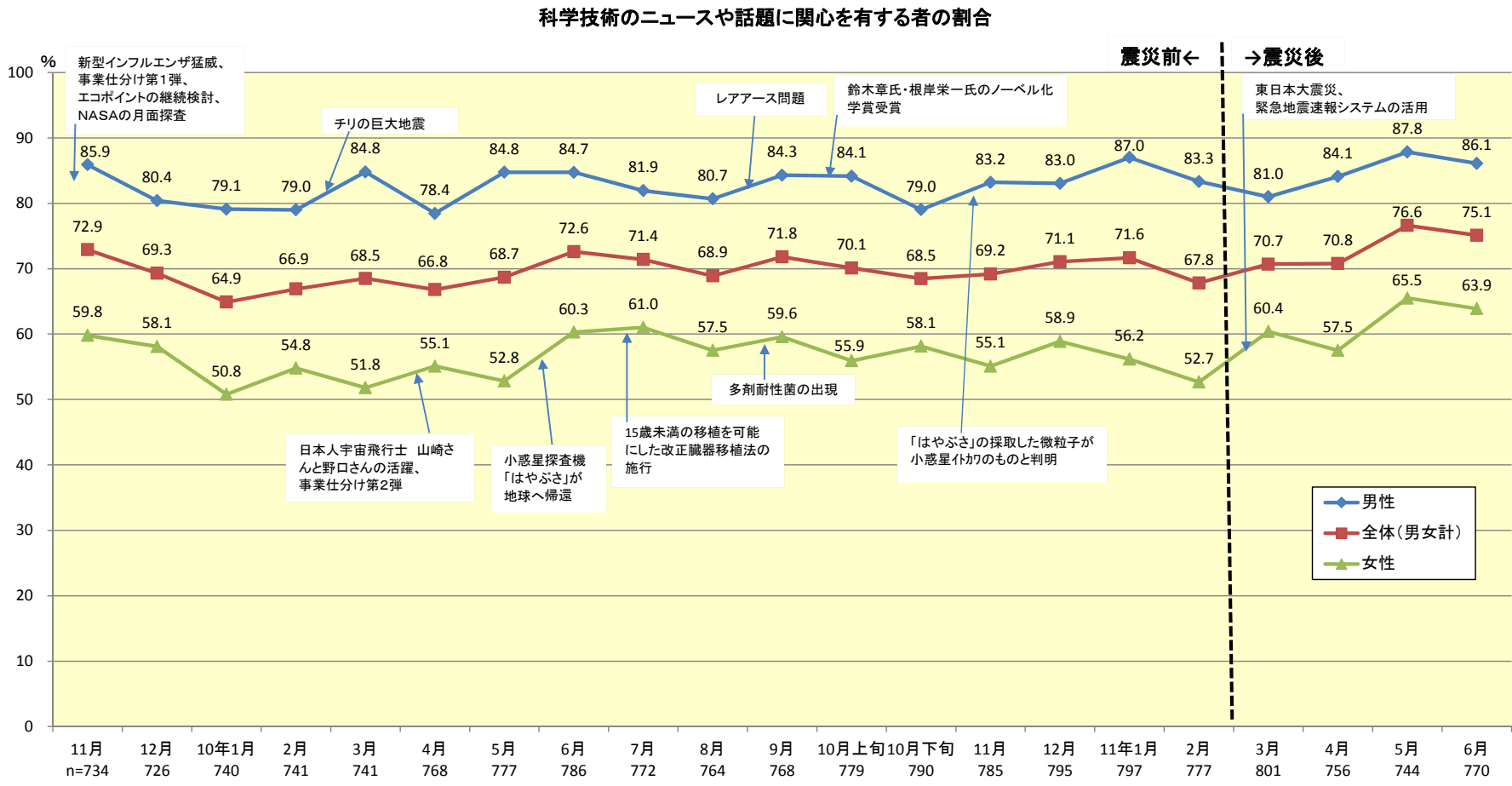
調査回数	実施期間	有効回答回収数
第1回	2009年11月27日(金)～11月30日(月)	734人(男368、女366)
第2回	2009年12月25日(金)～12月29日(火)	726人(男363、女363)
第3回	2010年1月22日(金)～1月25日(月)	740人(男368、女372)
第4回	2010年2月19日(金)～2月23日(火)	741人(男371、女370)
第5回	2010年3月19日(金)～3月24日(水)	741人(男374、女367)
第6回	2010年4月27日(火)～4月30日(金)	768人(男385、女383)
第7回	2010年5月28日(金)～5月31日(月)	777人(男387、女390)
第8回	2010年6月25日(金)～6月31日(月)	786人(男393、女393)
第9回	2010年7月23日(金)～7月27日(火)	772人(男382、女390)
第10回	2010年8月27日(金)～8月31日(火)	764人(男378、女386)
第11回	2010年9月24日(金)～9月27日(月)	768人(男382、女386)
第12回	2010年10月8日(金)～10月13日(水)	779人(男391、女388)
第13回	2010年10月22日(金)～10月26日(火)	790人(男391、女399)
第14回	2010年11月26日(金)～11月30日(火)	785人(男393、女392)
第15回	2010年12月22日(水)～12月25日(土)	795人(男401、女394)
第16回	2011年1月28日(金)～1月31日(月)	797人(男400、女397)
第17回	2011年2月25日(金)～2月28日(月)	777人(男384、女393)
第18回	2011年3月25日(金)～3月29日(火)	805人(男401、女404)
第19回	2011年4月26日(火)～4月29日(金)	756人(男377、女379)
第20回	2011年5月27日(金)～5月31日(火)	744人(男370、女374)
第21回	2011年6月27日(月)～6月29日(水)	770人(男388、女382)

### 調査実施会社

第1回～第5回 マイボイスコム株式会社  
 第6回～第18回 NTTレゾナント株式会社  
 第19回～第20回 マイボイスコム株式会社  
 第21回～ 株式会社インテージ

## 科学技術に対する関心度の推移

・科学技術のニュースや話題に対する関心度は、震災後の3月以降、月によって増減があるものの、高くなる傾向にあることが伺える。過去20箇月継続して行った調査において、2011年の5月が男女ともに最も高い値を示している。

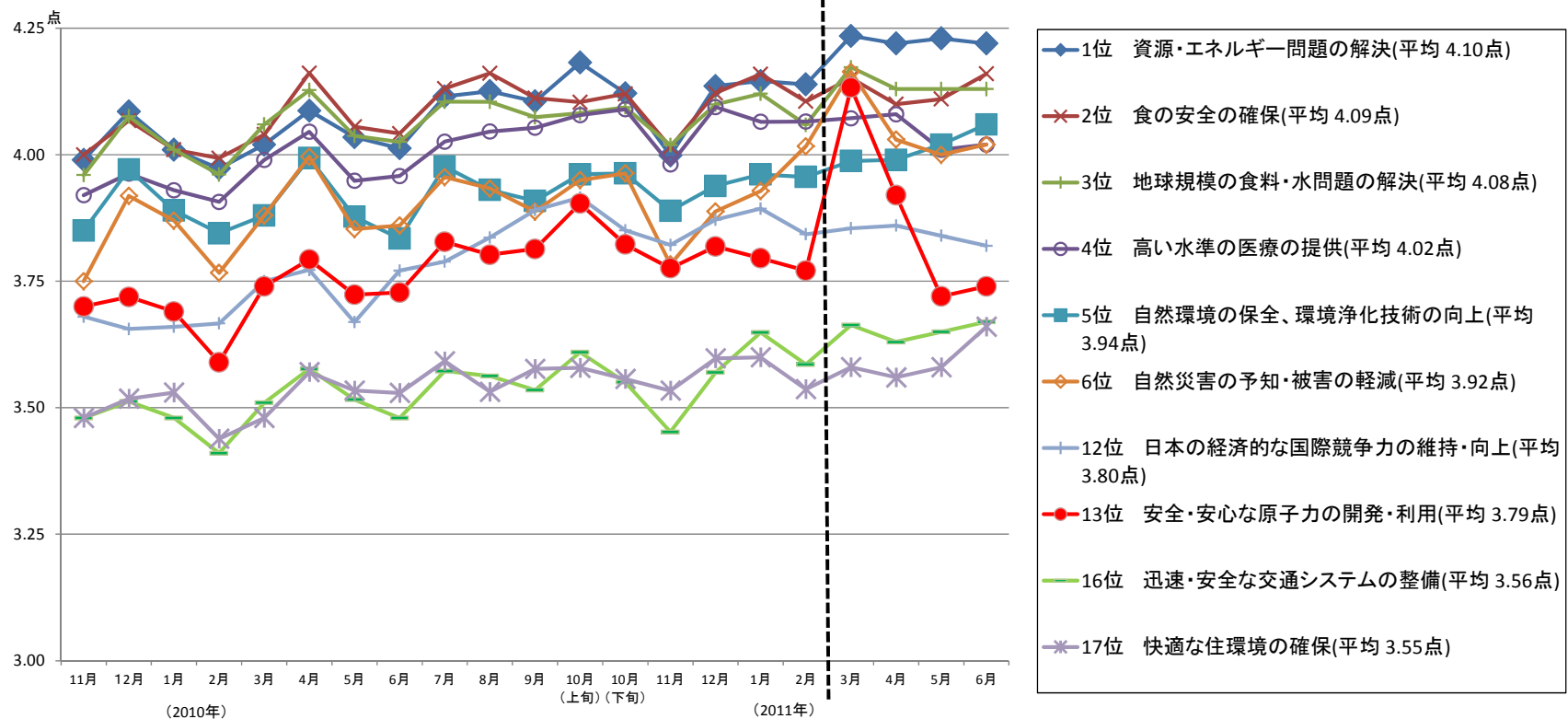


注: 1)「あなたは、科学技術についてのニュースや話題に関心がありますか」という問に対して、「非常に関心がある」、「どちらかといえば関心がある」、「どちらかといえば関心がない」、「全く関心がない」の4つの選択肢を設けて聞いている。本図では、「非常に関心がある」又は「どちらかといえば関心がある」と答えた者の合計割合を掲載している。  
 2)各月の文字の下にある数値は、各月で得られた有効回答数(男女計)を提示している。

## 社会的な課題解決の重要性に対する認識

・社会の様々な課題が解決・解明されることの重要性に対する認識では、震災後、特に「資源・エネルギー問題の解決」、「自然環境の保全、環境浄化技術の向上」に対する重要性の認識が高まっている。また、震災後、急激に高くなった「安全・安心な原子力の開発・利用」に対する重要性の認識は、5月以降落ち着きを見せている。

社会的な課題が解決・解明されることの重要性に対する認識(提示した21課題のうち10課題を掲載)

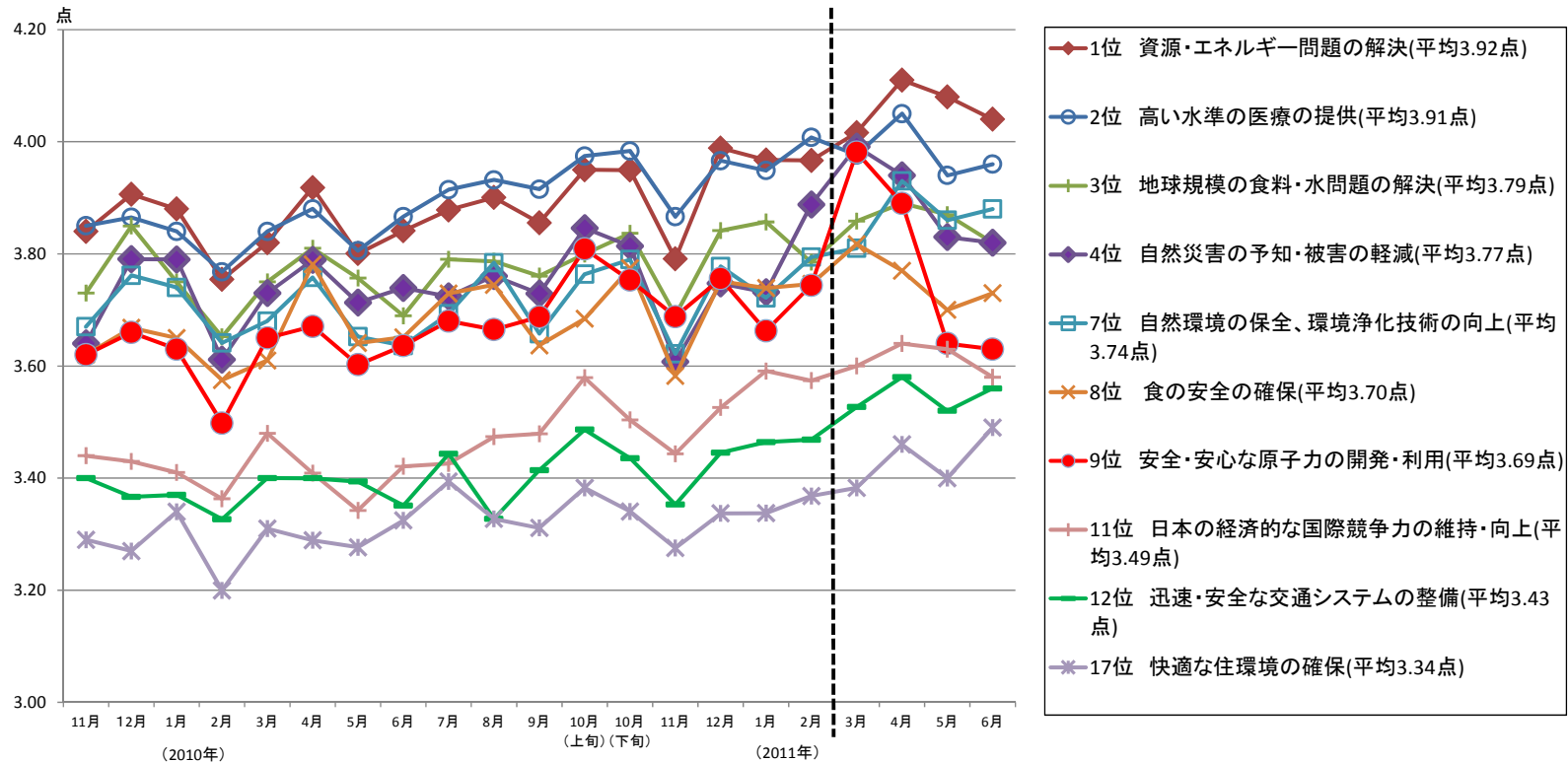


注:1) 調査では、「あなたは、以下のような社会の実現や、社会的な課題が解決・解明されることが重要だと思いますか。」と尋ね、回答欄は「重要だと思わない=1点」～「ある程度重要だと思う=3点」～「極めて重要だと思う=5点」までの5段階を設定し、提示した21の課題全てにおいて一つずつ、重要性の認識を選べるようにしている。  
 2) 本図では、各課題の平均得点(最低点が1点で満点は5点)を用いて図を作成している。

## 社会的な課題解決に科学技術が寄与することへの期待

・科学技術が様々な社会的な課題の解決・解明に寄与することへの期待は、長期的に見れば、ほぼ全ての課題において上昇傾向にある。震災の直後は、「資源・エネルギー問題の解決」、「自然災害の予知・被害の軽減」、「安全・安心な原子力の開発・利用」に対する期待が高くなっていったが、6月は、それらの課題は落ち着きを見せている。

社会的な課題が解決・解明されることに科学技術の発展が寄与することへの期待(提示した21課題のうち10課題を掲載)



注: 1) 調査では、「あなたは、以下のような社会の実現や、社会的な課題が解決・解明されることが重要だと思いますか。また、科学技術の発展が、そのような社会の実現や、社会的課題の解決・解明にどの程度寄与できると期待しますか」と尋ね、期待度を測る回答欄は「期待しない=1点」~「ある程度期待する=3点」~「強く期待する=5点」までの5段階を設定して、提示した21の課題全てにおいて一つずつ、科学技術が社会的な課題の解決・解明に寄与することへの期待を選べるようにしている。

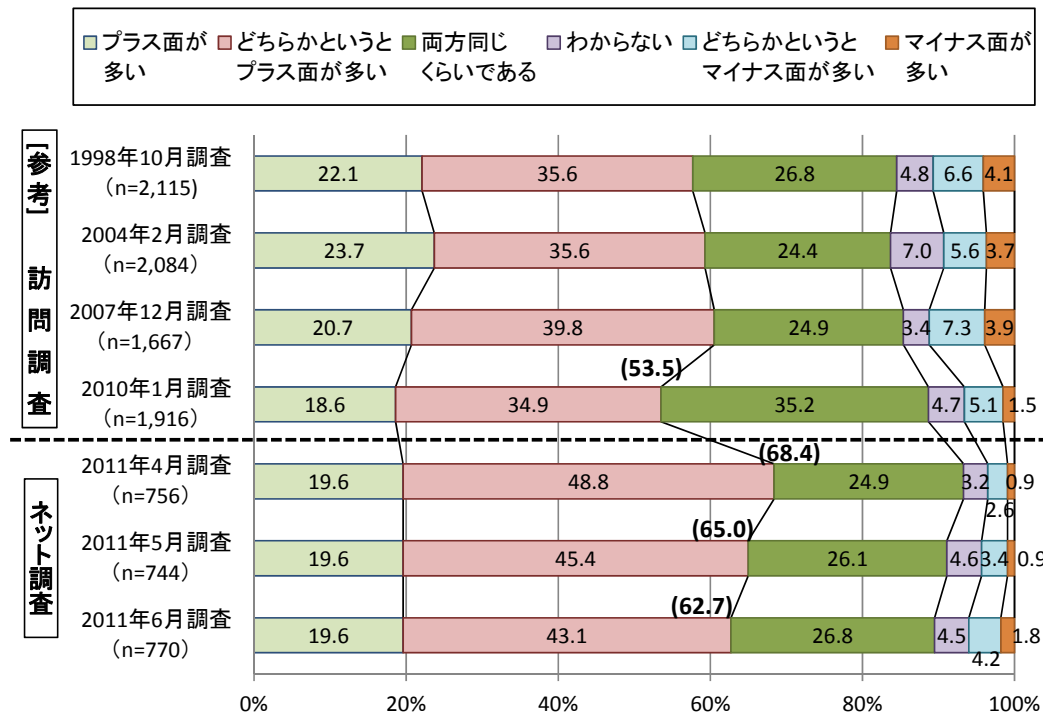
2) 本図では、各課題の平均得点(最低点が1点で満点は5点)を用いて図を作成している。

3) 本図で掲載した10課題以外の社会的課題は、期待度の順で、「5位 インフルエンザ等の感染症対策の推進」、「6位 資源の再生利用等による循環型社会の実現」、「10位 CO2の削減等による低炭素社会の実現」、「13位 宇宙や海洋等の未知の領域の解明」、「14位 新しい産業や雇用の創出」、「15位 高齢者が自立して生活できる社会の実現」、「16位 日本の学問水準の向上」、「18位 情報の利用が高度化した効率的で便利な社会の実現」、「19位 テロ等の不安や脅威の解消」、「20位 仕事や生活の利便性の向上」、「21位 科学的知識・思考力の普及した社会の実現」の11課題を提示した。

## 科学技術のプラス面とマイナス面の評価

- ・インターネット調査は、科学技術に関する質問に対して肯定的な意見がやや強く出る傾向にあるためネット調査と訪問調査の結果を単純に比較することは適切でない。
- ・このため、4月以降の3回の調査結果について比較してみると、4月に68.4%あったプラス面を評価する者の割合が、5月以降低下傾向にあるということが分かる。
- ・なお、「プラス面が多い」と評価するコアな層の割合が、4月以降3回続けて19.6%という値だったことは興味深い結果である。

科学技術のプラス面とマイナス面どちらが多いと思うか

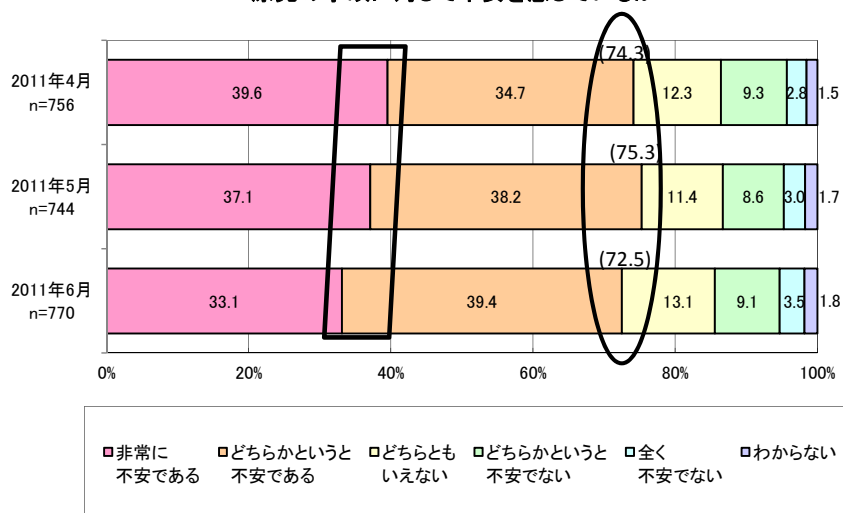


注: 1) 調査に用いた問では、「科学技術の発展には、プラス面とマイナス面があると言われておりますが、全体的に見た場合、あなたはそのどちらが多いと思いますか」と聞いている。  
 2) 1998年から2010年までの4回の調査は、内閣府が実施した訪問面接方式による調査の結果である。  
 3) ネット調査の結果は、科学技術政策研究所で実施した月次意識調査の結果である。

## 福島第1原子力発電所の事故に対する不安

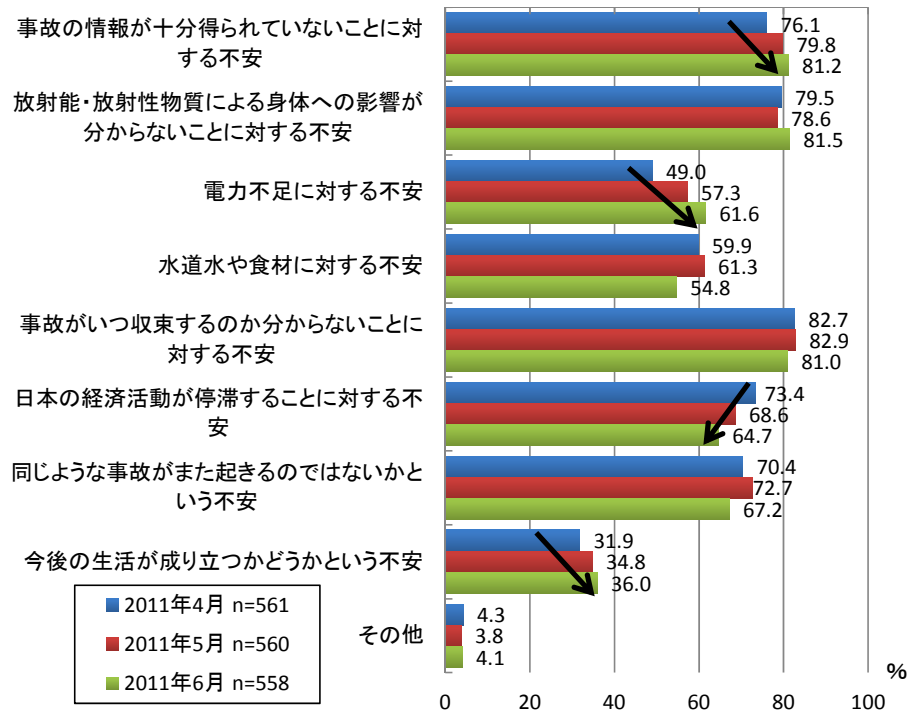
- ・6月末の段階で、依然として国民の7割以上の人々が原発事故に対する不安を感じている。ただし、「非常に不安である」と答えた者の割合は少しずつ低下している(左図)。
- ・不安を感じている人の不安要因を個別にみると、「放射能・放射性物質による身体への影響が分からないことに対する不安」や「事故がいつ収束するのか分からないことに対する不安」は、8割程度の高い値が続いている(右図)。
- ・「経済活動の停滞」に対する不安は減少傾向にあるのに対し、「事故の情報不足」・「電力不足」・「今後の生活」に対する不安は増加傾向にある(右図)。

原発の事故に対して不安を感じているか



注:「福島第1原子力発電所の事故の影響に対する不安について、あなたが現在感じている不安の度合いを、以下の選択肢の中から一つだけお選びください」と聞いている。輩出

どのような不安を感じているか(不安を感じている人の回答、複数回答)

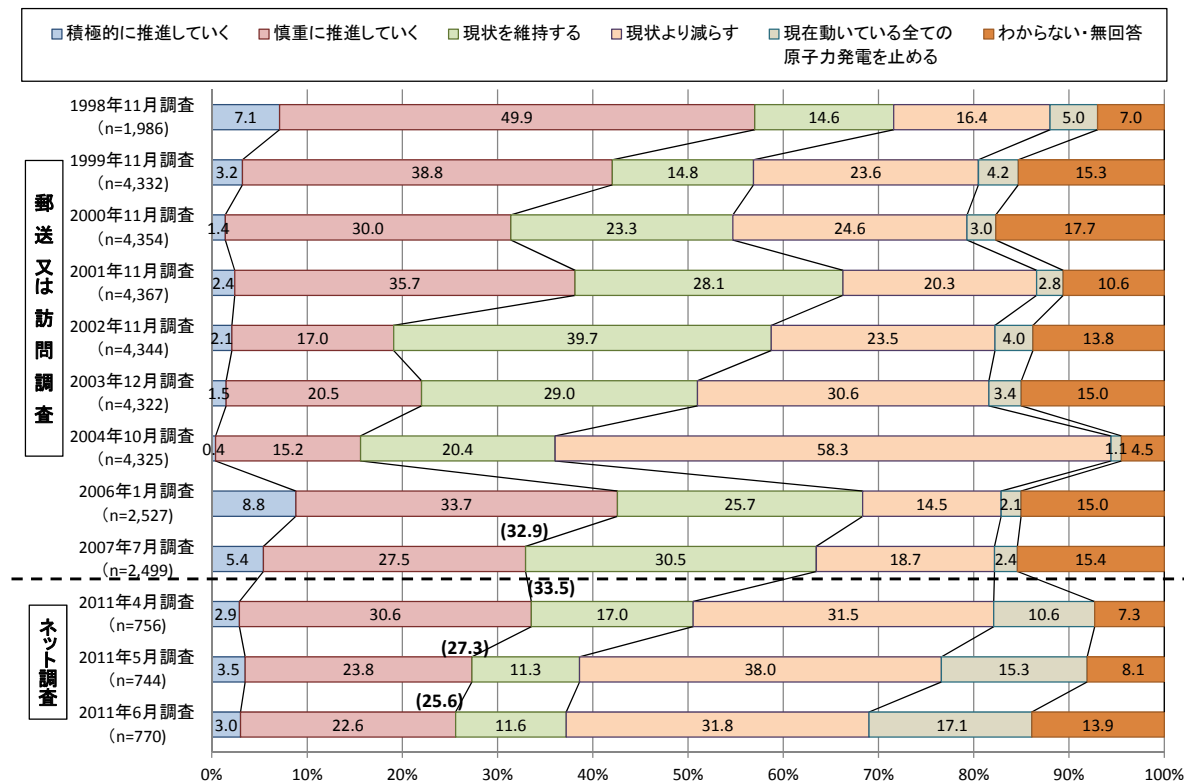


注: 左図の問いで、「非常に不安である」又は「どちらかと言うと不安である」を選んだ者の回答である。

## 今後の原子力発電の利用に対する考え方

・ネット調査の結果と訪問調査の結果を単純に比較することはできないが、震災後の4月に行った調査で、「原子力発電の利用を推進していくほうがよい」と考えている者の比率(33.5%)は、2007年に社会経済生産性本部が実施した調査結果(32.9%)とほぼ同等の値となっていた。ただし、5月、6月のネット調査では、「推進していく」を支持する意見が低下し、「現状より減らす」又は「現在動いている全ての原子力発電を止める」の比率が高くなっている。

今後、原子力発電の利用を推進していくべきと思うか、減らすべきと思うか



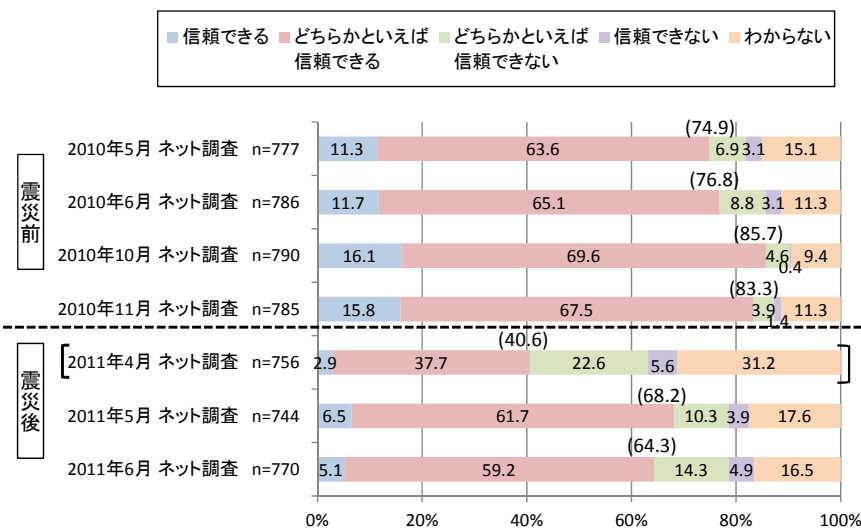
注: 1) 調査では、「あなたは、今後の原子力発電についてどのようなご意見をお持ちですか」と聞いている。また、選択肢は、「積極的に推進していくほうがよい」「慎重に推進していくほうがよい」「現状を維持したほうがよい」「現状より減らすほうがよい」「現在動いている全ての原子力発電を止めたほうがよい」「わからない」の6つを提示している。  
 2) 2007年までの調査は「財団法人 社会経済生産性本部」(現在の「公益財団法人 日本生産性本部」)が実施しており、本図では全国の市町村(一般都市地域)に在住する成人を対象にして行われたものを利用している(この他に、原子力発電所立地地域を対象にした調査もある)。  
 3) 1998年の調査は郵送法で、1999年から2007年までの調査は訪問留置法で行われている。2011年の調査は、科学技術政策研究所が実施したインターネット調査である。  
 4) 2011年6月の調査では回答欄に「その他」を設けたため、2011年6月の調査のみ「わからない・無回答」に「その他」を選んだ2.9%分が含まれている。



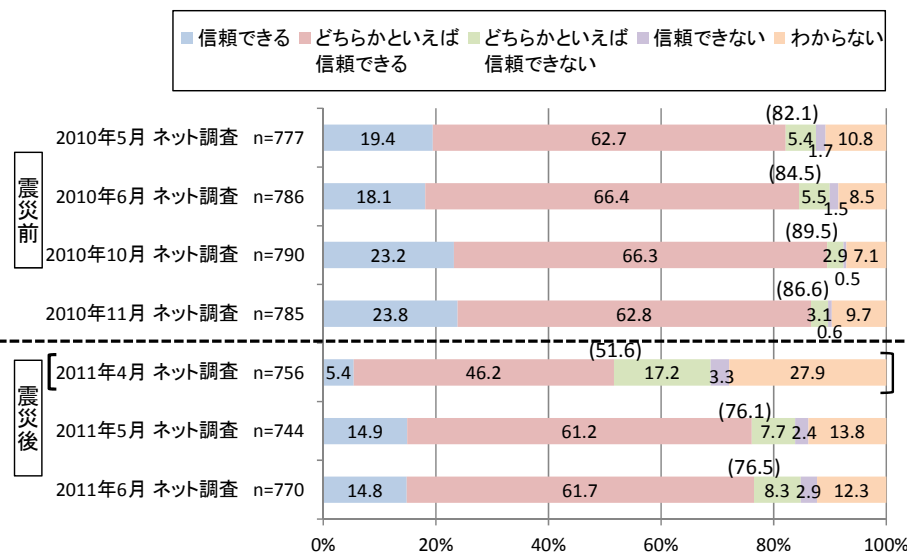
## 科学者・技術者に対する信頼の低下

- ・「科学者の話は信頼できる」かどうかという問い比較では、震災前の2010年11月の調査では、83.3%あった信頼度が2011年6月の調査では64.3%と20ポイント近く低下している(左図)。
- ・「技術者の話は信頼できる」と尋ねた問いも同様に、震災前の2010年11月に86.6%あった信頼度が震災後の6月は76.5%と、10ポイントほど低下している(右図)。
- ・なお、2011年4月の調査では、他の問いに含めて科学者や技術者の話が信頼できるかを聞いているため、4月の調査結果は他の結果と単純には比較できない。

科学者の話は信頼できる



技術者の話は信頼できる



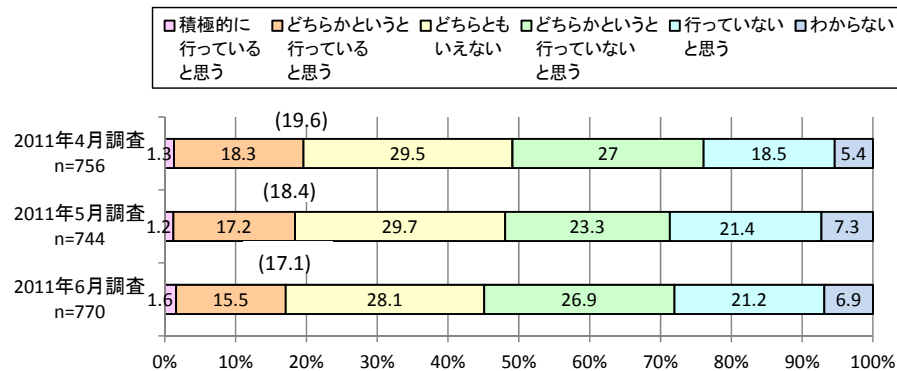
注: 1) 2010年の5月から11月までの調査では、「あなたは、科学者の話は信頼できると思いますか」又は「あなたは、技術者の話は信頼できると思いますか」と個別に聞いている。  
 2) 2011年4月の調査では、他の問いで、「以下の文章(意見)について、あなたはどのように考えますか。あなたの考えに最も近い選択肢を一つだけお選びください」と聞いた上で、『科学者の話は信頼できる』と『技術者の話は信頼できる』という文章を提示し、「強く賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「強く反対」「わからない」の5つの選択肢から選ぶようにしている。  
 3) 2011年5月以降の調査では、2010年の5月～11月に実施した調査と同様の聞き方に戻している。

## 科学者によるメッセージの発信

・今回の原発の事故に関し、科学者・学会等は専門家・専門家集団としての意見表明を行っていると思うかを尋ねたところ、「行っている(積極的に行っていると思う、どちらかというに行っていると思う)」と評価している人は、全体の2割にとどまっております、その比率は低下傾向にある(上図)。

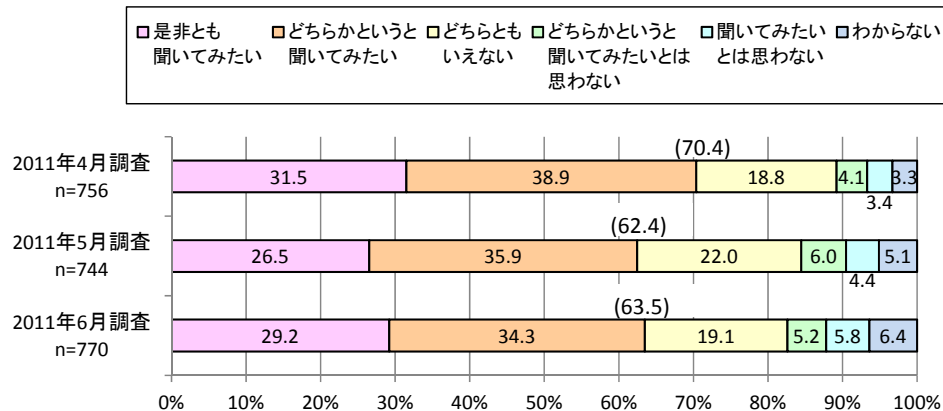
・一方、今回の原発の事故に関して、科学者・学会等による意見表明を聞いてみたいかを尋ねたところ、6割以上の人は聞いてみたい(是非とも聞いてみたい、どちらかというに聞いてみたい)と答えている(下図)。

原発の事故に関し、科学者・学会等による意見表明が行われていると思うか



注: 問は、今回の福島第1原子力発電所の事故に関して、日本の科学者・学会等が、それぞれの分野における専門家・専門家集団としての意見表明を行っているか(メッセージを発信しているか)どうかについて、お伺いいたします。と前書きした上で、(1)「あなたは、今回の福島第1原子力発電所の事故に関して、科学者・学会等は、専門家・専門家集団としての立場から、政府や国民に対して意見表明を行っていると思いますか。以下の選択肢の中から、あなたの考えに最も近いものをお選びください」と聞いている。

原発の事故に関し、科学者・学会等による意見表明を聞いてみたいと思うか



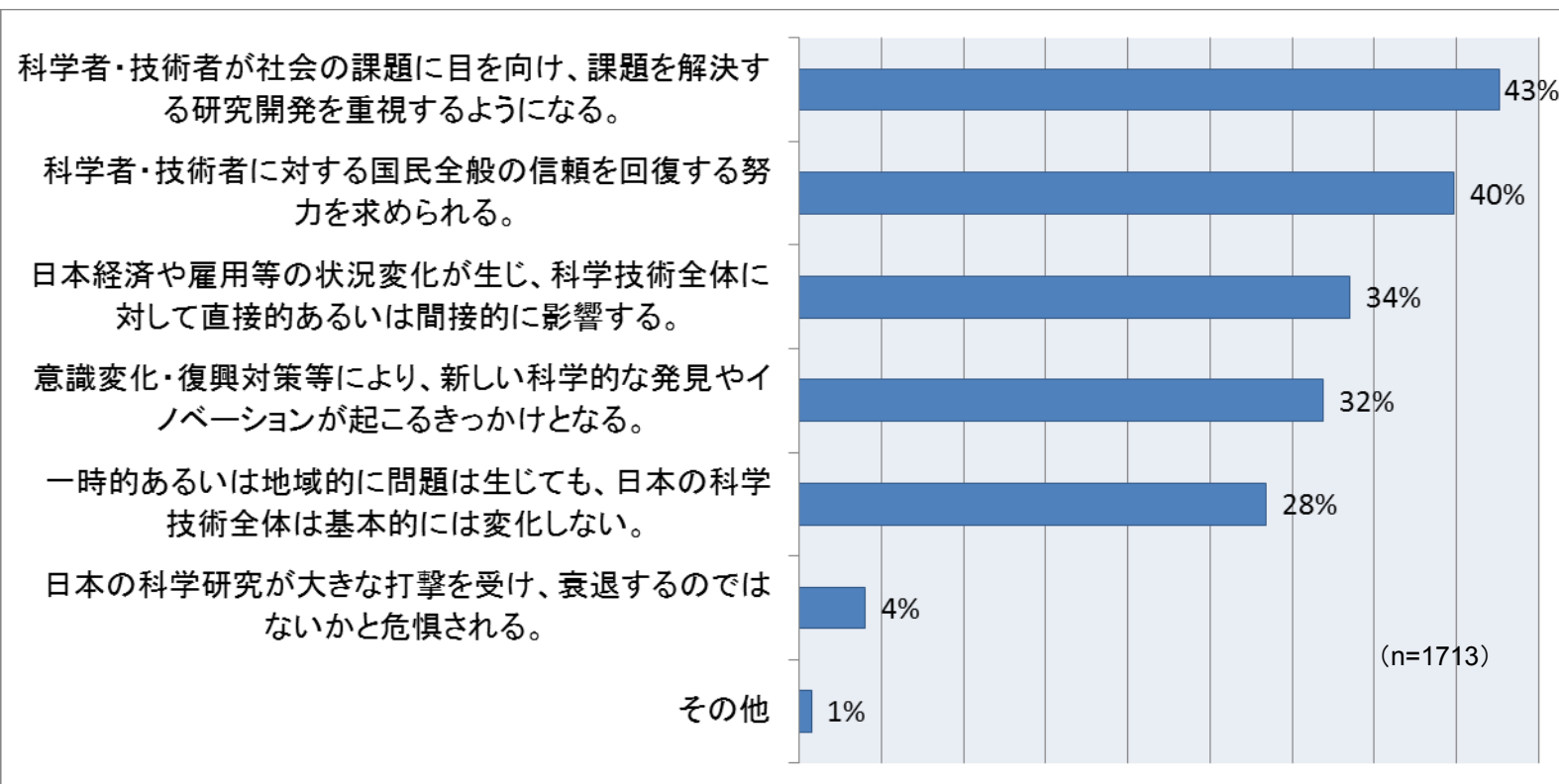
注: 問は、(2)「あなたは、今回の福島第1原子力発電所の事故に関して、科学者・学会等による専門家・専門家集団としての意見表明を聞きたいと思えますか。以下の選択肢の中から、あなたの考えに最も近いものをお選びください」と聞いている。

## 東日本大震災に対する科学技術専門家へのアンケート

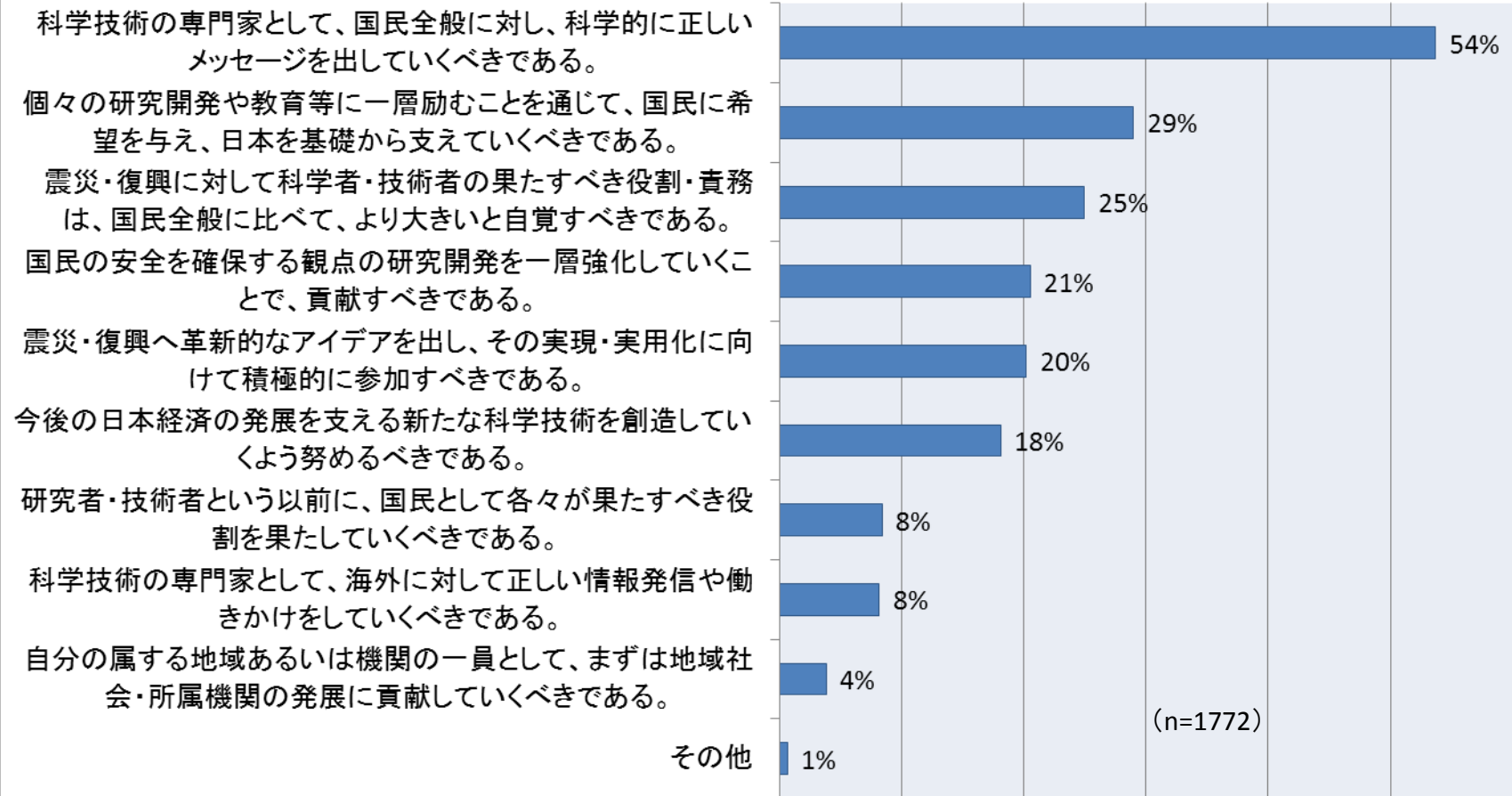
実施期間： 2011年7月4日～11日

回答者数： 946名／1729名（回収率55%） 内、全設問の回答者数：805名（47%）

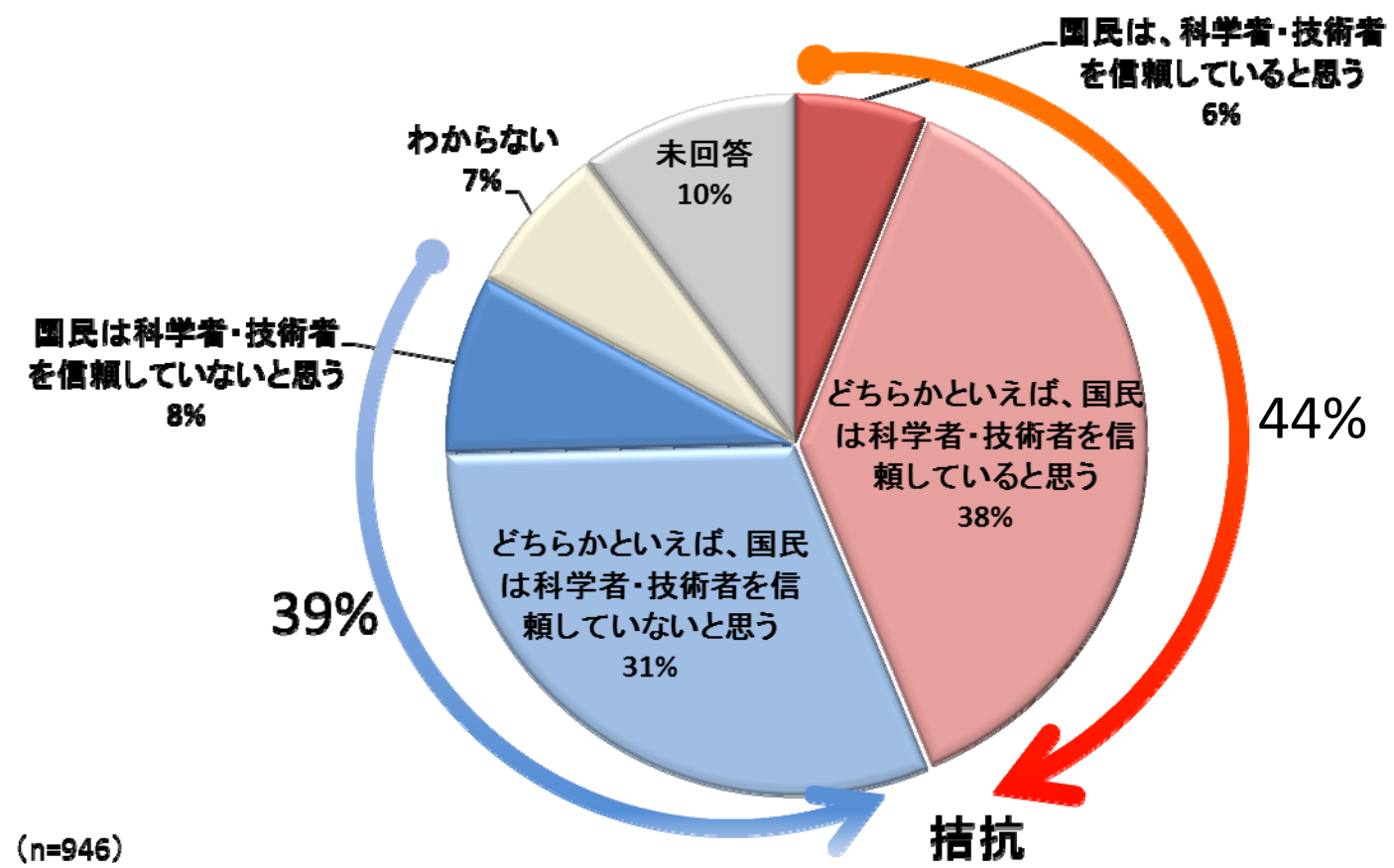
東日本大震災後が、日本の科学技術全体にどのような影響を与え、どのような変化が起こると思いますか（複数回答 2つまで）



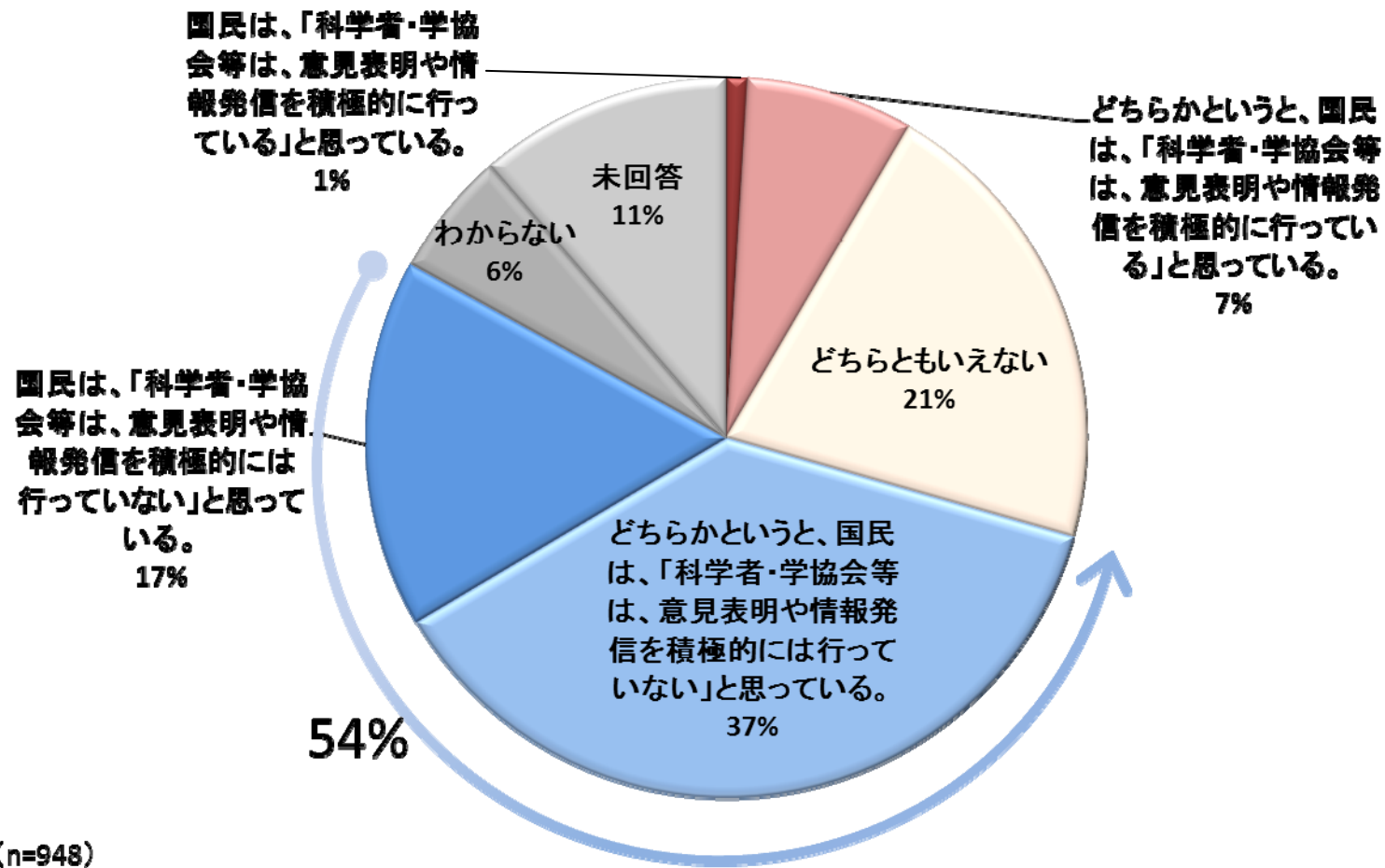
震災・復興に対しては、日本が総力を挙げて取り組む必要があると言われてしています。このなかで、特に科学者・技術者の果たす役割について、どのようにお考えですか  
(複数回答 2つまで)



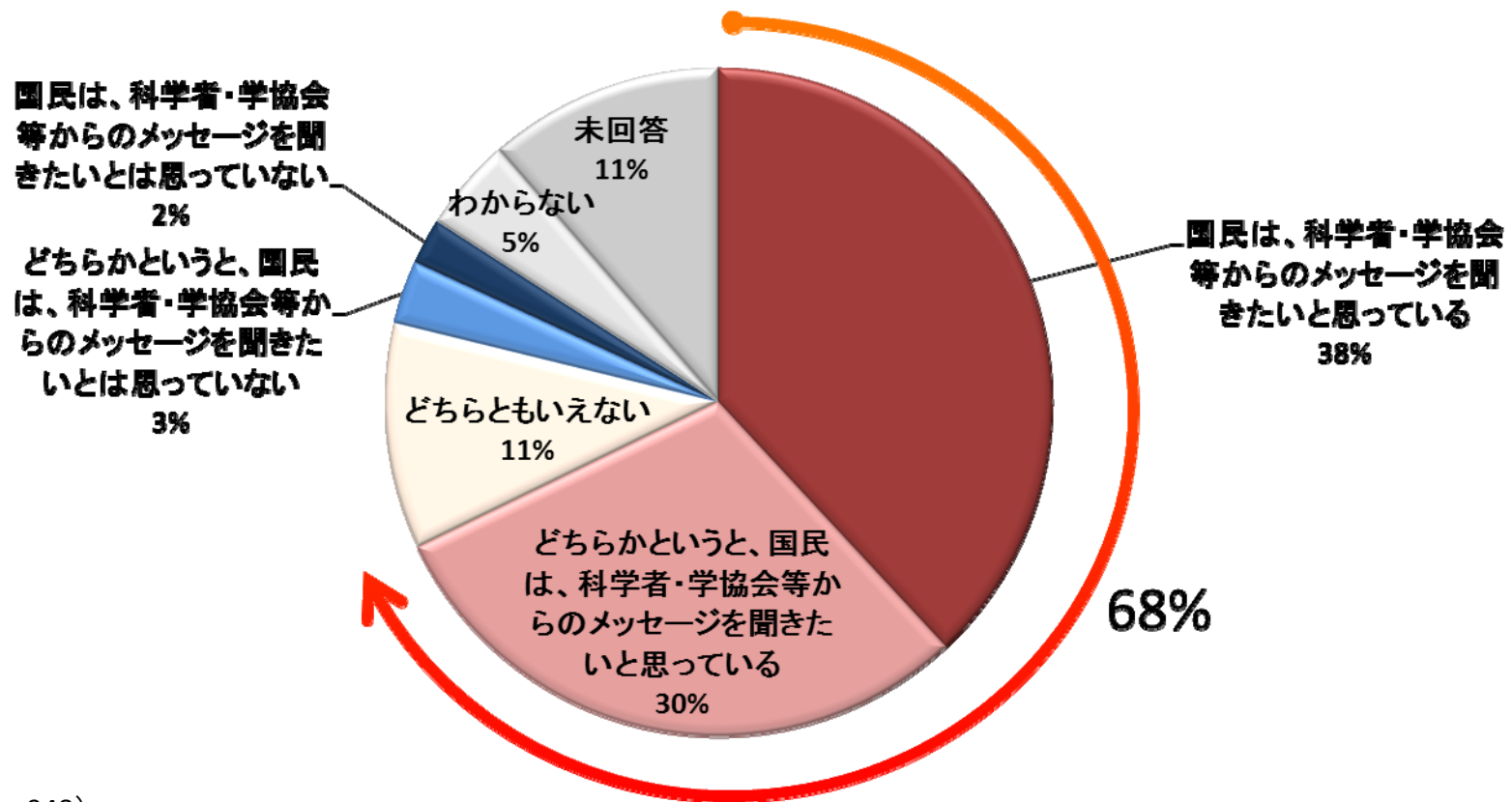
東日本大震災の後、科学者・技術者の発言に対する国民の信頼はどうか  
（単一回答）



東日本大震災に関連して、科学者・学協会等による政府や国民に向けた意見表明・情報発信(メッセージ発信)は、国民全般からどのように評価されていると思いますか  
(単一回答)



東日本大震災に関連して、科学者・学協会等からの意見表明・情報発信(メッセージ発信)を国民は求めていると思いますか (単一回答)



(n=948)